

第3回香川県総合計画の見直しに係る有識者懇談会 委員意見と県の考え方・対応

	意見	県の考え方・対応	部局
1	<p>○資料2の7番にて、前回懇談会での私の発言への県の考え方を記載いただいているが、具体性がない。例えば愛媛県のように、高校生のヘルメットの配布をするとか、企業への積極的な働きかけ、ヘルメット購入補助金など、具体性をいただきたいと考えている。</p> <p>○震災・防災に関して、耐震化できている家庭と、耐震化できていなくて避難所へ行く家庭では、持ち物・準備物が全然違うので、それを明らかにして県民に知ってもらうことが重要と考える。</p> <p>○男女共同参画に関して、厚生労働省や内閣府の調査によると、夫が家事育児に参加する家庭と、そうでない家庭では、第2子を出産する割合に大きな差があることから、男性が家事育児を学習する機会を設けるなど、ソフト面での対策を検討いただきたい。</p>	<p>○ヘルメット着用の促進に向け、県警察や市町と連携して、また関係団体にも協力をお願いし、行政だけでなく県民全体で取組みを進めることとしています。</p> <p>そこで、計画本文、重点政策6「交通事故や犯罪のない安全安心な社会をつくる」の「現状と課題」に「ヘルメットの着用促進を図る」ことについて加筆します。</p> <p>○家庭での備蓄物資については、飲料水（一人1日当たり3リットルを目安）、乾パン、アルファ米、レトルト食品、医療品セット、簡易トイレ等を3日間分（できれば1週間分）準備することを推奨しています。</p> <p>これらの備蓄物資のうち、避難所等への避難時には、ご自身や家庭の状況に合わせた必要な物資をリュックサック等に詰めておき、すぐに持ち出せるよう準備しておくことを促しています。</p> <p>県民への周知については、これまで、県広報誌の折込チラシや県広報ラジオ、新聞の広報記事などの広報媒体を活用し、その重要性を周知しているところです。</p> <p>加えて、防災出前講座での紹介や、かがわ防災フェスタ・県民防災対策促進イベントなどにおける、防災リュックの中身の展示、非常持出品や備蓄品に係るリスト紹介などを行っており、引き続き、これらの取組みを実施することとしています。</p> <p>○今年度の新規事業として、男性の家事・育児実践講座や講演会の開催に取り組んでいます。少子化対策として、男性の家事・育児への参加は、重点的に進める取組みの一つと考えております。</p>	<p>警察本部、危機管理総局</p> <p>危機管理総局</p> <p>政策部、子ども政策推進局</p>

2	<p>○「多様性」について、前回の懇談会の中でもLGBTQの話とか出ており、今回のパブコメでも「性的少数者」に関する意見が寄せられていたが、現在、県内の全市町がパートナーシップ宣言をされていたかと思う。また、全国では、都道府県単位でパートナーシップ宣言をされているところがいくつかあったように思うので、多様性を認めてどんな人でも活躍できる香川県に、誰でも受け入れられる、みんなが活躍できる形の香川県にしていきたい。働く職場でも、学校でもそういった状況となるように、もう少しこの施策、政策の中でも表現できないか。</p> <p>○重点政策16「まち全体の美化推進」に関して、年齢や障害の有無などに関わらず、おもてなしをという観点から、トイレの洋式化もそうだが、やはりもう少しユニバーサルデザインというか、バリアフリーという表現もその施策の中であってもいいのかなと思ったので、そのような考えがあるのなら、加えていただきたい。</p> <p>○災害対策に関して、県民、企業、様々な形での共助の取組みについて重点政策5のところで書かれているが、その中で、自主防災活動への地域の企業の参画というの、加えたほうがよいと思う。</p> <p>災害の初期段階では、その地域で生活している者として、一緒に何かに取り組むとか、企業が持っている物資を当面使用するとか、そういったことから、その地域の防災の中に、企業も加えていただければ、従業員としても、いろいろお手伝いできるのではないかと思いますので、加味していただきたく提案する。</p>	<p>○働く職場での対応については、各論編の施策34「人権啓発の推進」の「取組みの方向2：企業における啓発活動の支援等」に「職場におけるさまざまなハラスメントの防止や各人権課題に関する配慮について、啓発に努める」ことについて加筆します。なお、総合計画では、特定の人権課題について個別に記載することはしていないため、人権全般についての記載としています。</p> <p>また、学校での対応については、重点政策2「教育の充実」の「取組みの方向5」において、「多様性を認め合い共に育つ子どもの育成」を掲げるとともに、施策35「人権・同和教育の推進」の「取組みの方向1：学校教育における人権・同和教育の推進」の中で、互いに認め合い、高め合うことのできる仲間づくりの推進を記載しています。</p> <p>○観光客が県内に滞在する期間、気持ちよく過ごしてもらう環境を提供することが、観光客の利便性や満足度の向上につながり、また、観光客の受入環境整備のためにはトイレの洋式化のほか、バリアフリー化も重要だと考えています。このため、重点政策16「まち全体の美化推進」の「現状と課題」、「取組みの方向1：快適で美しいまちづくりとおもてなしの向上」及び「県民等とともに推進する取組み〔市町〕、〔観光・交通施設〕」に「バリアフリー化の推進」について加筆するとともに、各論編の施策第76「観光かがわの推進」の「取組みの方向」にも同様に加筆します。</p> <p>○重点政策5「災害や渇水に強い県土をつくる」の「現状と課題」、「取組みの方向3：危機管理体制の強化」及び「県民等とともに推進する取組み〔企業〕」に、「企業の防災活動への参画促進」に関して加筆するとともに、各論編の施策20「危機管理体制の強化」及び施策21「防災意識の向上」の「取組みの方向」にも同様に加筆します。</p>	<p>総務部</p> <p>教育委員会</p> <p>交流推進部、健康福祉部</p> <p>危機管理総局</p>
---	---	--	--

<p>3</p>	<p>○子育てと言うと、どうしても小さな子どもをイメージしがちだが、一人で何でもできるためつい目を離してしまう、その結果心まで離れてしまうような思春期の中高ぐらいの子どもを持つ保護者へのサポートというのは非常に大事だと考えている。</p> <p>心の面もそうだが、子どもを3人、4人育てることは大変だと考えておられる家庭のほとんどが、小さい頃じゃなく、大きくなってから、高校・大学でお金がかかるから絶対無理だというふうに考えておられるので、資金面での補助などあれば、非常にありがたいかなと思う。</p> <p>○育休取得に関して、大企業であれば、1人2人育休を取得しても代替りの人材がいるかもしれないが、数人しか働いていない会社の場合、その人が休んでしまったら、もうたちまち仕事が立ちゆかなくなる。育休を取ってほしいけど、その分の仕事は誰がするのかといえば、代替りの人材がいない。そこをサポートできない限りは、いくら育休を取れ、産休を取れといったところで、やはり現実的な話ではない。香川県はほとんどが中小企業なので、そこはクリアしていかないと、子どもたちはやはり大企業がいいなと思うようになり、県外に出てしまう子が増えるという悪循環になると危惧されるので、何かしら歯止めをかけるのは大事ではないかなと思う。</p> <p>○資料1の4ページで、重点政策の1と2に、「『子育て県かがわ』をつくる」、「教育の充実」とあり、子育て世代とすれば嬉しいなと思うのだが、その下の代表指標では、教育の充実に関する指標が全くないのは残念だと感じた。</p> <p>今日か昨日の新聞でICTの活用が香川県では非常に小・中学校で低いと報道されており、なかなか活用が進んでいないようで、全国の平均以下とのことだった。</p> <p>また、各論編の指標一覧に掲載されている「子どもたちが授業をどれだけ理解しているか」という割合は、これも割と低い50、60%ぐらいだったと思うが、かなり問題だと思う。</p> <p>子どもたちは、基本的に自分の住んでいる地域の中学校に行くことが多く、あまり学校を選べないので、県内で同じようなレベルを保つためにはどうすればいいかということ、頑張って取り組んでいただきたい。</p>	<p>○保護者が、子どもの発達段階に応じたかかわりができるように、さまざまな機会を通じて家庭教育の啓発や学習機会の提供に努めるとともに、子育てに不安や悩みを抱える保護者に対しては、学校や家庭、関係機関との連携を深め、保護者が安心して家庭教育ができるよう支援しています。</p> <p>教育に係る経済的負担を軽減するため、高等学校等就学支援金や奨学のための給付金を支給したり、経済的な理由で修学・進学が困難な高校生や大学生等に対し奨学金の貸付を行っています。</p> <p>○男性育休の取得を進める上で代替りの人材の確保は大きな課題であると認識しています。県内中小企業においては、仕事が属人化されないよう複数担当制を取り入れたり、業務の効率化を図ることで代替職員の不足を補っている取組事例もあることから、リーフレット等でのそのような取組事例を紹介したり、課題を抱える企業に対して専門家による個別支援などを行っています。</p> <p>また、国においては、育休取得に係る代替職員を確保する場合などに支給される助成金等の制度もあることから、県が中小企業等に派遣しているアドバイザーなどを通じて、そのような制度の周知啓発を図るなど、様々な支援に努めてまいります。</p> <p>○ICTの活用に関しては、今年度新たに教育委員会事務局に情報化推進室を設置し、情報化推進計画の策定を進めるとともに、ICTの活用を個別最適な学習にどのようにつなげるかを引き続き検討してまいります。</p> <p>また、授業内容の理解は、児童生徒の学力向上につながるものであり、今後も、授業の改善や充実を推進し、児童生徒の確かな学力を育成するとともに、教員の指導力の向上やICTの効果的な活用などに積極的に取り組んでまいります。</p> <p>なお、代表指標については、県教育基本計画（令和3～7年度）を見直す際に、改めて議論してまいりたいと考えています。</p>	<p>子ども政策推進局、教育委員会、総務部、政策部</p> <p>商工労働部</p> <p>教育委員会</p>
----------	--	--	---

4	<p>○この度、見直し後の総合計画の最終案が取りまとめられたところだが、実際に策定された後、この計画がこれから成長していかなければいけないと思う。</p> <p>その中で一番大切なことは、来年、再来年、もしくは3年、5年後、おそらくまた環境が変わってきたときに、この計画に込められた知事をはじめ県職員の強い意志と哲学的なもの、そこは変えずに、これから来るであろう新しい時代や大きな波に対して、フレキシブルに何を変えていくべきなのか考えることだと思う。そのような思いを持って、これからこの計画を育てていただきたい</p>	<p>○総合計画は、基本構想編の「第5章 計画推進のために」の「2 実効性のある進行管理」にお示ししているとおり、策定後も、県民の視点を施策の評価に反映させるために、意識調査などにより県民の意識やニーズを把握し、その結果を踏まえた分析を行うとともに、社会経済情勢の変化等に柔軟に対応するため、必要に応じて本計画の見直しを行うなど、常に県の実情に合った内容となるように進行管理してまいります。</p>	政策部
5	<p>○この香川県の総合計画が全県民に浸透していく方法が、今後必要ではないかと思っている。</p> <p>例えば学生向けとか、あるいは働く女性向けとか、子育てをしている最中の若い家族向けとか、対象者もしくは政策を特化させたパンフレットを作って配布し、学生であれば、フィールドワークや学校の話し合いのテーマに取り上げてもらい、そこから深く浸透させていくというのも、効果的な広報になるのではないかと思う。</p> <p>広報の仕方について、いつも通りのリーフレットではなく、デジタルでも構わないが、そういった形で惹きつけるようなものがあるのもよいのではないか。</p>	<p>○見直し後の総合計画のパンフレットの作成に当たっては、委員のご提言も踏まえ、手に取る人が、自分と関係が深い政策・施策がどこに書かれているのか、分かりやすい構成となるよう工夫することなどを検討し、総合計画にてお示ししている本県の県政運営の基本指針について、多くの県民に知っていただき、理解いただけるよう努めてまいります。</p>	政策部
6	<p>○防災の備蓄の関係で、この9月に15キロある水のケースを1000ケース入れ替える予定としており、計15トンもあるため、高齢者の多い我々だけでは大変だと思っていたが、企業の若手が皆さん出てくれて、入れ替えしたりする作業をやってくれるということになった。そのように、うまく地域課題に企業や学校、病院の皆さんにも関わってもらうようにしていけば、2、3年しているうちに、じゃあ一緒にやってやろうかという感じになっていくので、防災のみならず、県の施策の実現について、みんなで頑張って盛り上げていくということはこれから大事ではないかと思っている。</p>	<p>○基本構想編の「第5章 計画推進のために」の「1 推進の視点」(1) 県民等との協働」にてお示ししているとおり、計画の推進に当たっては、県民をはじめ、地域団体、NPO・ボランティア、企業、大学、金融機関など多様な主体の積極的な参加と連携が重要と考えており、迅速で正確な情報提供に努めるとともに、透明性の高い行政運営と、県民等との協働の仕組みづくりに努めてまいります。</p>	政策部
7	<p>○計画が出来たときに、これをどのように広げていくかというのは、県民一人一人が他人事ではなく当事者意識を持ってもらうことが大事だと思うので、これからはもっとNPOや地域コミュニティなどいろいろなところと繋がっていくことを行政も考えていったほうがよい。</p>	<p>○基本構想編の「第5章 計画推進のために」の「1 推進の視点」(1) 県民等との協働」にてお示ししているとおり、NPO・ボランティアが行う地域の課題解決のための取組みや、企業などが行う社会貢献活動を促進するとともに、適切な役割分担のもと、県の施策との連携など、協働の仕組みづくりを進めるほか、地域コミュニティの活性化に</p>	政策部

		向け、地域づくりに関わる人材の育成、地域コミュニティ活動の推進に向けた支援等、各市町と連携した地域づくりの推進に取り組んでまいります。	
8	<p>○我々民生委員が一番お世話しなければならないのが、1人暮らしで、子どもたちがいないとか、いても、遠方に住んでいて、何かあってもすぐに間に合わないというような独居老人である。</p> <p>病院や買い物へ行くにも、自動車を運転できない方は、バスなど交通機関を利用することになるが、それも田舎の方になると、1日5便とか6便しか通らなくて、そのバス停までが歩いて行けないという方もいらっしゃる。</p> <p>そういった中、各論編の29ページにある「施策11：ともに支え合う社会づくりの推進」というところで、自助、公助、共助の3つ書かれているが、この共助という形で、地域みんなで支え合っていかなければいけないと考えている。</p> <p>計画では、素晴らしいことをたくさん書かれているが、これを実現するためには、私たち民生委員も頑張っていくが、行政にもいろんな力をいただければと思っている。</p>	<p>○県においては、移動手段のない高齢者が、買い物、通院等のために移動できるよう、住民互助による移動・外出支援の仕組みを構築する市町に補助を行ってきたところ です。また、市町においても移動手段を必要とする高齢者等に対して助成しているところであり、各地域における民生委員の御協力をいただきながら、移動手段が困難な方に事業の周知を図ってまいります。</p> <p>高齢者のみ世帯や認知症高齢者等が増加する中、市町においても民間事業者や社会福祉協議会、民生委員等と連携した高齢者見守りのためのネットワークの構築を進めているところであり、県としても、その取組みを支援してまいります。</p>	健康福祉部
9	<p>○前回の懇談会で私が意見したことへの回答が資料2の10番にあるが、独居老人対策としての次世代住宅などの支援や、ペット飼育活用による高齢者健康づくりについて今後検討してくれると書かれている。この「検討」というのは、いわゆる政治的な言葉じゃなくて本当に検討するというので、わざわざ県医師会まで来て、言ってくれたので、そうかなと受け止めている。</p>	<p>○独居老人対策としての二世帯住宅などの支援に関するご意見については、引き続き、他自治体の取組状況などの情報収集に努め、検討してまいります。また、ペット飼育活用による高齢者の健康づくりに関するご意見についても、関係団体と連携し、取組みを検討してまいります。</p>	健康福祉部
10	<p>○総合計画の広報に関して、例えばタウンミーティング的なものを頻繁に開催することも考えられる。多様な人が少人数で集まっているテーマについて、まずは言いたいことをパッと出させて、その後で、それをどう解決に結びつけていくかということをやると、案外人間関係ができて、前進することがある。</p> <p>例えばみんなで子育てするためにはどうすべきかというテーマにしたり、みんなでチャレンジしようということテーマにしたり、行ってみたい香川にするためにはどうしたらいいのかというようなアイデアソンを、いろんな年齢層の人を交えた複数のグループで議論させてみて、そのアイデアを競わせるみたいなことを、各</p>	<p>○総合計画にてお示ししている本県の県政運営の基本指針については、県民に直接ご説明し、県政の課題を共有したうえで生の声を聞くことは、計画の着実な推進において大変重要なことと認識しています。</p> <p>あらゆる機会を捉えて、県民の皆様のご意見を聞いたり、対話する場を設け、そこで得られたご意見や新たな県政の課題については、本計画の推進に活かしてまいりたいと考えています。</p>	政策部

<p>所で年間に5、6回やったりすると、相当浸透するのではないかという気がする。</p> <p>また、県職員が、例えば知事自身そのアイデアソンの中に飛び込んでいただいたりすると、間違いなく盛り上がると思うし、香川県は今そんな大変なことになっているのかとみんな考えると思う。せっかくこれだけの委員の方がお集まりいただいて、苦勞して3回議論した上でのことなので、一歩前に踏み出している香川県になることができれば、他の県とちょっと違うことが起こるのではないか。</p>		
---	--	--

※意見の詳細は議事録により御確認ください。